

パリオリンピック

地球環境問題に配慮したパリ 2024 大会。“持続可能性”をレガシーに。

2024 年 7 月 26 日～8 月 11 日に、フランスのパリで夏季オリンピック(パリ 2024)が開催されます。

これまでのオリンピックは環境の負荷が大きいと批判されることもありましたが、そこでパリ大会は持続可能な大会を目指しており、どのように実現するのかに注目が集まっています。



パリ 2024 のビジョン

パリ 2024 はこれまでの大会のなかで、最もサステナブルな大会の実現を目指しています。その実現のために、以下の 3 つを柱とした持続可能性とレガシー戦略を策定しました。

①スポーツで結ばれた世界

②多様性

③環境保護

これらを実現するために、パリ 2024 で実施される取り組みを紹介します。

競技施設の 95%は既存・仮設の施設を利用

大会用の競技施設の建設を抑えることで、環境への負荷を抑え、大会後に施設が地域の負のレガシーになることを防ぎます。

観客の移動手段は公共交通機関・自転車・徒歩のみ

大会のチケットを持っている観客は、パリの公共機関が使い放題。

大会中にパリを走行するバスはゼロエミッション車

ゼロエミッションとは CO2 など廃棄物の排出をゼロにすることです。代表例は、バッテリーの充電で走行する電気自動車(EV)です。トヨタはパリ 2024 に、2,650 台以上の電気自動車の提供を表明しています。

競技施設の 85%は、オリンピック村から 30 分で移動可能

選手の移動を最小限に抑えるだけでなく、移動にはゼロエミッション車が使われます。トヨタは水素を燃料とした電気走る FCEV (MIRAI)を 500 台提供し、大会関係者・アスリート・ボランティアが使用する予定です。大会終了後はタクシーとして利用され、パリの持続的な社会の実現に貢献します。

低炭素で環境に配慮した選手村

パリのオリンピック選手村は、低炭素で環境に配慮したデザインに加えて、100%再生利用エネルギーを使用します。

使い捨てプラスチックを使用しない大会

環境に配慮した取り組みが積極的に打ち出されています。競技場では、ペットボトルの持ち込みが原則禁止とされ、代わりに再利用できるガラス瓶やソーダファウンテンが用意される予定。特に、マラソン選手への給水においても、プラスチックの使用を禁止するために徹底的な計画が練られています。

セーヌ川でのオリンピック開会式パレード

パリ 2024 ではスタジアムではなく、パリ中心部のセーヌ川で開会式パレードが行われます。具体的には各国の代表団がボートでセーヌ川を 6km 移動し、トロカデロ広場前でフィナーレを迎える予定です。ノートルダム大聖堂やルーヴル美術館、アレクサンドル 3 世橋などの名所を通過するため、見どころ満載のパレードになると期待されています。最大の特徴は、一般の観客が無料で観覧できることです。セーヌ川の広い範囲で開会式を実施することで、60 万人以上の観客が参加すると予想されています。※一部のエリアは有料となる予定です。パリ 2024 のスローガンは「Games wide open」で、日本語では“広く開かれた大会”を意味します。スローガンにふさわしい開会式パレードとなるでしょう。



オリンピックと環境問題

近代オリンピックは 1896 年のアテネ大会が始まりです。100 年以上経った今では、世界最大のスポーツイベントに発展しています。

このように大規模化したがいゆえにオリンピックは問題も抱えています。例えば東京 2020 の開催費用は、1 兆 4,328 億円で当初予定していた約 2 倍の費用がかかり、多くの批判を招きました。これほど費用がかかる主な原因は、1 万人以上の選手が宿泊する選手村の整備や移動手段の確保、競技会場の建設などが必要なためです。また、巨額な費用以外にもオリンピックは多くの環境問題を抱えています。

自然破壊

選手村や競技会場の建設、交通手段の道路整備による自然破壊は、オリンピックの大きな課題です。



ゴミの廃棄

多くの選手や観光客が訪れることで大量のゴミが廃棄され、開催地の環境に対して大きな負荷を与えています。

廃墟化

オリンピックのために作られた施設や設備が廃墟化してしまうことも珍しくありません。例えば 1998 年の長野オリンピックでは、ジャンプ台やアイスホッケー会場、ボブスレー会場などの施設を建設しました。しかし、現在では利用を休止している施設もあります。自然を切り開いて建設し、大会後には負のレガシーとして地域に負担をかけるのもオリンピックの問題点です。

食品ロス

東京 2020 では約 13 万食の弁当の廃棄が問題となりました。食品ロスは世界的な課題のなか、多くの食品ロスを出すことが問題視されています。

2012 年のロンドンオリンピック「持続可能なオリンピック」

ロンドン 2012 はオリンピックの課題に対して、プラン段階から「サステナブル」を取り入れて課題の解決を図った大会です。具体的に二酸化炭素を 50%削減する「低炭素五輪」を掲げ、再生可能エネルギーや低炭素コンクリートを活用しサステナブルな大会の実現に貢献しました。パリ 2024 では、そのロンドン 2012 より二酸化炭素排出量を 55%削減するという高い目標を掲げています。